



(仮称) 大東市立ほうじょう学園の設置に関する基本構想 (概要版)



現状と課題 P1~P16

対象となる学校：北条小・北条中

①小中一貫・連携教育の充実

義務教育 9 年間を見通した取組みの推進が求められており、小中一貫・連携教育の充実が必要です

②施設の老朽化

現北条小・北条中ともに長寿命化改修工事が必要です

③学級数予測

児童生徒数は減少傾向にあります

【令和 10 年度学級数(見込)】現北条小…12、現北条中…5

④土砂災害警戒区域

現北条小は「土砂災害警戒区域」等に指定されています

(仮称) ほうじょう学園の施設・機能 P24~P32

移動や教職員の情報共有・一体的なマネジメント体制などのメリットを生かすため「**施設一体型**」とします。

校舎・体育館

現北条中校舎・体育館を改修し、一部増築します
学年を超えて交流や連携が図れる空間を考慮します

プール

全天候型のプールを活用するため、民間に委託します

給食

小中一貫した食育を実現するため、自校調理方式による全児童生徒への給食を実施します

複合施設等

住民協働スペースなど、学校と地域の魅力、双方を高める居場所づくりを推進します

北条公園との共用

隣接する北条公園の一部を学校施設として共用し、地域に開かれた公園と学校の共用をめざします

通学区特認校制

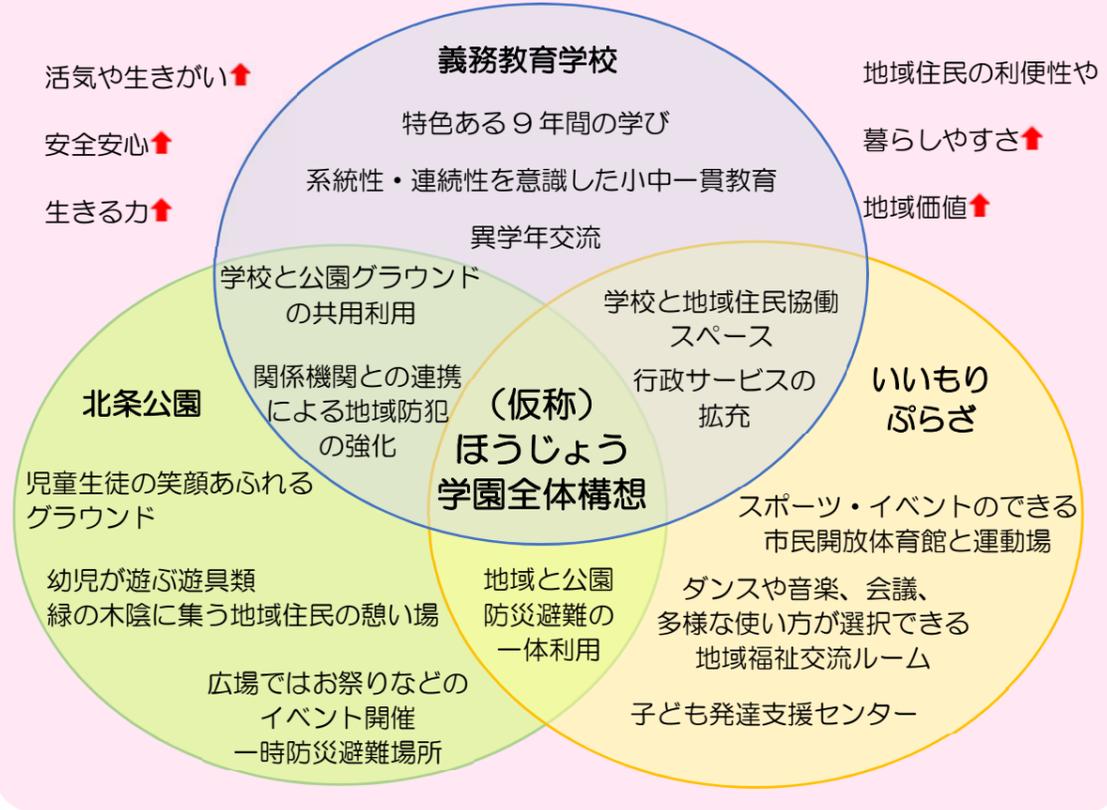
従来の通学区域は残したままで、市内全域から入学・転入学できる「通学区特認校制」の導入を検討します

基本構想策定にあたっての方針 P2

1. 小中一貫教育の成長と成熟をめざした学校であること
2. 『大東市教育大綱』の理念を後押しし、教育の課題解決を導く学校であること
3. 地域課題の解決に加え、地域の発展に寄与する学校であること

(仮称) ほうじょう学園全体構想 P17

北条における教育分野での新たな挑戦として、学校が地域の拠点となり、地域全体が学習環境となるよう、それぞれの機能を連携させ、エリア価値を高めることを提唱します。



設置に向けた準備・今後の検討課題 P33~P39

概算工事費

同規模・同用途の近隣市町村事例を参考にし、**67 億円超**、補助金等相殺後の実質増加額は **10 億円程度**と想定しています。(今後精査予定)

整備スケジュール

令和 6 年度に実施計画及び基本設計、令和 7 年度以降に実施設計及び増築・改修工事を行い、**令和 11 年度以降に開校**をめざします

施設計画

必要諸室(普通教室、特別教室、職員室、図書室、昇降口など)の機能、規模を検討し、各諸室の整備方針を決定します

その他の検討

学校名、校歌、校章、制服、校則、教育内容、学校と地域との連携、複合施設等の在り方などの具体的な検討を進めます

今後、附属機関・地域説明会・ワークショップ等を通して、児童生徒・教職員・地域等の意見を聞き、より良い学校とするための検討を進めます

(仮称) ほうじょう学園の教育 P18~P23

児童生徒の「学び」と「育ち」の系統性・連続性を意識した指導を行うため、9 年間の連続した学びの中で、小学校と中学校が共に義務教育学校の一貫を形成する学校として、学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成する「**義務教育学校**」として創設します。

①系統性・連続性を意識した小中一貫教育

教員間で児童生徒の情報を共有し、個性に応じたきめ細やかで丁寧な指導を行います

②「6-3」制以外にも柔軟にできる学年の区切り

「4-3-2」制など、独自の区切りを設けて、子どもたちの発達段階に応じて効果的な教育課程を編成し、児童生徒の指導を行います

③特色ある 9 年間の学び

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる新しい教育を推進します

④中 1 ギャップの緩和・解消

新しい環境での学習や生活に不応をおこす、中 1 ギャップの緩和・解消に取り組みます

⑤異学年交流による精神的な発達

9 学年の児童生徒が集団活動などを通じてお互いを理解・尊重し合うことにより、社会での共生や協力につながる価値観を育みます